

1. 開催日時

令和5年7月25日(火)

開会：午後1時30分

閉会：午後2時48分

2. 開催場所

東庄町役場 1階 多目的ホール

3. 議題

教育の条件整備など重点的に講ずべき施策についての意見交換

① 東庄町ならではの教育

『ふるさとへの愛着と誇りを醸成する教育の充実』

② その他

4. 出席者

東庄町長 岩田 利雄

教育委員会

教育長 石橋 宏克

教育長職務代理者 林 英伸

教育委員 岩井 利幸

教育委員 秋元 悦子

教育委員 青野 敬

説明員

教育課生涯学習担当課長 郡 伸明

教育課長補佐 平山 秀樹

健康福祉課長 布施 光規

事務局

総務課長 堀江 弘之

総務課長補佐 高柳 隆之

5. 傍聴者

14名

6. 議事の経過

別紙のとおり

令和5年度第1回東庄町総合教育会議 会議録

日 時 令和5年7月25日（火）

午後1時30分から

会 場 東庄町役場 多目的ホール

（午後 1時30分 開会）

○堀江総務課長 ただいまから、令和5年度第1回東庄町総合教育会議を開催いたします。

次第に沿って進めさせていただきます。

初めに、町長挨拶。岩田町長、お願いします。

○岩田町長 皆さん、こんにちは。本日は、ご多忙の中、また、大変暑い中、委員各位には、令和5年度の第1回総合教育会議ということでご参集を賜りました。誠にありがとうございます。

本日の総合教育会議でございますけれども、協議・調整事項の一つであります、教育を行うための諸条件の整備、地域の実情に応じ、教育の振興を図るため、重点的に講ずべき施策についての意見交換をお願いするものでございます。

さて、小学校の統合から3年が経過をいたしました。統合と同じタイミングで、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が発生いたしました。子供たちを取り巻く地域社会の環境が大きく変化をし、また、学校に求められる役割も大きく変わってきております。

地域社会との連携を深めながら、子供たちの健全育成を図るための事業の推進が、非常に重要なものであると考えます。

皆様方には、町教育に関する課題を共有し、今後の施策方針等について、有意義なご意見を賜りたく、お願いを申し上げる次第でございます。

よろしくお願いを申し上げまして、挨拶とさせていただきます。ご苦労さまです。

○堀江総務課長 ありがとうございます。

続きまして、教育長挨拶。教育長、お願いいたします。

○石橋教育長 それでは、令和5年度第1回総合教育会議に先立ちまして、一言ご挨拶申し上げます。

新型コロナウイルスも5類へと移行し、ようやく通常の日常というものが、戻ってきております。しかしながら、このコロナの影響は計り知れず、子供たちの日常に大きな影響を及ぼしております。学力のさらなる拡大、そしてコミュニケーション不足による人間関係の希薄さ、いじめ、不登校児童・生徒の増加など多くの問題がさらに増加していると感じているところでございます。

加えて、家庭教育の低下から家庭のしつけが学校に持ち込まれるケースも見受けられるようになってきております。

このような現状からも、昨年度、総合教育会議で学校・家庭・地域の連携がとても重要であるという認識から、コミュニティスクール、いわゆる学校運営協議会の導入と、地域学校協働活動の充実について皆様からご意見を頂戴しました。

その後、様々な規則を整備し、去る5月2日に第1回学校運営協議会（コミュニティスクール）を発足させ、東庄小学校・東庄中学校の学校運営方針について委員の皆様から了承を得たところでございます。

この学校運営協議会の当日は、千葉県教育委員会生涯学習課長をはじめ、千葉県教育委員会の方々や、北総教育事務所の方々をご来賓としてお迎えし、オブザーバーとして文教常任委員会の委員長さん、副委員長さん、そして教育委員の皆様、また、こども園の園長先生など多くの方々にご出席をいただき、開催をすることができました。

第2回の学校運営協議会については、来る8月9日に開催をする予定であります。

内容としては、本日の議題でもある「東庄ならではの教育」について、本日、話し合いが行われますが、それ以外の部分でも熟議をしたいと思っております。

ます。

また、地域学校協働活動についても、町教育委員会の生涯学習係で行っていた様々な講座やイベント、放課後こども教室を体系化しまして、その充実を図っているところでございます。

学校・家庭・地域の連携は東庄町においては、従来から行われてきたところではございますが、その体系化が進んでいなかったことや、単発に終わっている事業等もたくさんありました。この学校運営協議会の発足、あるいは地域学校協働活動の充実によって横のつながりができ始めたと感じているところでございます。

本日は、「東庄町ならではの教育」というテーマで、委員の皆様から様々なご意見を頂戴したいと思います。特に、「ふるさとに愛着を持ち、そして誇りを持てる教育」について皆様方から忌憚のないご意見を頂戴できればありがたいと思いますので、どうぞよろしく申し上げます。

以上まとめませんが、挨拶に代えさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○堀江総務課長 ありがとうございます。

それでは、早速議事に入りたいと思います。

議事進行は、町長にお願いいたします。よろしくをお願いいたします。

○岩田町長 それでは、議事に入らせていただきます。議事進行は、私にさせていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、今回は教育の条件整備など重点的に講ずべき施策についての意見交換ということを議題とさせていただきたいと、このように思いますので、よろしくお願いいたします。

事務局から説明をお願いします。

○事務局（高柳課長補佐） 総合教育会議につきましては、教育を行うための諸条件の整備、その他の地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るため、重点的に講ずべき政策について協議・調整いただくことを目的の一

つとしております。

今回の会議では、東庄町ならではの教育をテーマに、ふるさとへの愛着と誇りを醸成する教育の充実という内容について議論を深めていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○**岩田町長** ただいま、内容について説明がございました。

挨拶の中で申しましたように、実際には町の教育ということになってくるわけでありまして、意外と大きくて、なかなかつかみにくいところがあるかと思っております。簡単に申し上げますと、「東庄町で生まれた子供たちが、地域の中で育まれて育ち、そしてまた地域社会の一員として、やがては東庄町をつくっていく」、つまり、東庄を支えていくという人たちになるわけがあります。私の思いは、東庄町で生活する人たちが、子供たちの教育に関心を持ち、ある意味では直接的・間接的にいろいろ携わってくれ、地域が子供たちを育てることにあると考えています。

ですから、社会生活を行っていく上で、町民の皆さん方の意識の中に、「私たちの町の子供たちはみんなで育てようではないか」というような意識を高めていただきたい、それが基本になってくると思います。

言うなれば、「ふるさとが人を育て、そしてまた、人がふるさとをつくっていく」というローテーションが生まれてくると感じています。これがやはり従来の姿でもあるし、これからも伝え続けていかなければならないことであるという気持ちでいっぱいです。

小学校が統合されました。その中で一番不安になったのは、実際には子供たちだったろうと思います。「大人たちは人数が減ったからということでの統廃合」という程度でしか考えてないと思いますが、子供たちの気持ちの中には、各学校・地域ということが非常に重要視されてくると思います。

従来は各地区には地区なりの良さがあって、その良さを十分伝えながら、今までの5校の学校が競うようにして、いろんな教育の場面で、ほかの小学校と違った意味での教育を育まれてきました。

しかしながら、それが小学校になって一つになって、またそれがお互いの意見をぶつけ合いながら一つの形をつくっていく。子供たちは順応性が非常

に高いものですから、いろいろな形で小学校を形成していくものと思います。子供たちは、やがては身につけたいろんな知識や知恵を発想豊かにして、地域づくり、まちづくりに大きく貢献してくれるだろうと、そういう期待感と思いを持っております。人が地域の中で育み育てられ、そしてまた、それが大人になってから、ある意味では還元されて、その人たちのおかげで町づくりが優位に進む、それが一つローテーションになればと感じているところです。

学校づくりは、子供たちがどのような動き方をして、そしてまた地域の中で育まれていくかということが言われるものですから、それに対しての町民の在り方も、いろいろな意味で、最初は困ったなということの意見もあった時代がありましたけども、それもすぐに解消されて、東庄小学校として自立していくものと思います。

東庄町には、小学校一つ、中学校一つということでもありますけれども、これこそが東庄町の教育だということに大きく一步を踏み出したなという気がします。それをカバーしていく力とは、地域に住む住人の力であり、良い意味での手本になっていただきたいと思います。言い換えれば、「東庄まちづくりは子供たちの教育にあり」とも言えます。

地域全体で「未来を担う子供たちの成長」を考えるということは、今までは各地区だけのことを考えればよかったわけでもありますけども、これからは大きく転換して、「東庄町の子供たちを育てよう、育てよう」というようなものになっていっていただきたいと思います。学校・家庭・地域が、一丸となって子供たちのために尽力を、それからお互いの知恵を絞りながら教育を進めることこそ、いま必要であると考えます。

今申しあげましたように、「未来を担う子供たちの成長」を新たな仕組みの構築・体制づくりを皆さんのご理解とご協力をいただきながら進めてまいりたいと思います。

本日は、これからの東庄町の教育、特に、ふるさとへの愛着と誇りを醸成する教育の充実、忌憚のないご意見等を賜りたくお願い申し上げます。

それでは、私の申しあげましたような形の中で、今後、この会議を進めさ

せていただきますので、よろしくお願いを申し上げたいと思います。

教育長、何かありましたら。

○石橋教育長 町長、ありがとうございます。

私から、まず、この冊子をご存じだと思います。「第6次東庄町総合計画後期基本計画」という冊子がございます。この部分から、いろいろ重要なキーポイントをこのような形で抜き出してみたものが、お手元の資料「東庄町の教育 グランドデザイン」です。基本方針としましては、「次代へつなぐ人づくり地域づくり」を基に、学校教育、社会教育、そして家庭教育を位置づけ、全体を通して「生涯の教育」というように認識しています。

細かい説明は省きますが、「ふるさとに愛着を持ち、それを醸成していく教育」の参考にさせていただければと、資料を提出させていただきました。

もう一つの資料をご覧ください。「ふるさと教育」というのはどういうことかということについて、文部科学省が出しているものを私が東庄の教育に合うように要約したものです。

学校教育において「ふるさと教育」を進めるにあたっては、地域の教育資源である「人・物・こと」を生かした教育活動を進めることが重要です。これを踏まえて、東庄町を見ていくと、「豊かな自然、各地域に受け継がれた伝統と文化、太古から受け継がれた歴史」があり、これから再認識していく必要があります。行政を含めた地域・学校が、それらを生かして、「ふるさとへの愛着や誇りをさらに高めていく教育」を進めることが重要です。

また、地域においては、住民がふるさとの自然や歴史などの理解を高め、その魅力や価値に気がつくこと。学校においては、地域の人々とともに行う自然体験、あるいは社会体験を通じながら子供たちに地域社会の一環としての社会性や貢献意欲を育むこと。このような相互を関係づけさせながら、「ふるさと教育」を進めていく必要があります。

こういったことも参考にされ、委員の皆様から様々なご意見を頂戴できればありがたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

○岩田町長 ありがとうございます。それでは、順に教育委員の皆さんからい

ろんなご意見を賜りたいなど、そのように思いますので、よろしくお願い申し上げます。

林職務代理者をお願いします。

○**林教育長職務代理者** 職務代理の林でございます。よろしくお願いいたします。

今、町長をはじめ、教育長からもお話しいただきまして、まず「東庄町ならではの教育」ということで、その一つの柱として「ふるさと教育」というところのお話をいただきました。「ふるさと教育」を考えていく上で、いくつかの柱があると思います。

一つは、各地域に受け継がれた伝統・文化をどのように子供たちに伝えていくのかということ。もう一つが、家庭教育の重要性ということです。家庭教育に関して言えば、本町の現状は全国平均や千葉県平均と比べれば高くはありませんが、ある程度の一定の数の長期欠席児童生徒が存在しているということです。

「ふるさと教育」を行う上においても、やはりベースとなる家庭という基盤がしっかりとしていないと「ふるさと教育」だけに焦点を当ててもなかなか難しい側面があるかと思えます。

その両側面からどのように対応していくのかということを考えなければいけないと思います。その上で、最初に、学校を「長期欠席する児童生徒」ということに関して意見を述べさせていただきます。大分、既にもう幼稚園以降の段階の話ではなくて、それ以前、保育の段階から保護者同士の連携というものがかなり薄れてきております。コロナ禍になってさらに拍車がかかりました。

実際、保護者も社会的生活を行う上で、ゆとりがなくなっているということを見ますと、「ふるさと教育をやっていますよ」というだけでは、保護者にもそれに参加意欲が湧かないとかという側面もあると思います。

その辺のところをしっかりと「町としてのサポート」をし、フォローをしていくというのが非常に重要であると思います。

教育委員の代表として、健康福祉課関連の保育に関する会議にも出席をさ

せていただいています。国でも「こども家庭庁」ができました。町でも教育委員会が行う生涯学習と健康福祉の両面から家庭教育にウエイトを増やしていかないと今後対応しきれないのではないかと考えます。

つまり、保育と教育というところを分けずに一体化させていくというのが、これからはますます重要になっていくと思います。

このような体制を構築した上で、地域の方々が連携をして生涯学習、ふるさと教育を実行していくというのが理想的な、実行しやすい形であると考えます。

先ほど教育長からご提示いただいた町の基本方針でもありますが、教育の基本は、やっぱり生涯学習が全般を担っています。この生涯学習を更に拡充して、動きやすい、あるいは活動・行動しやすい、提言しやすい形をつくり、そこに地域の方々をしっかりと組み込んでいく体制・環境づくりが必要であると思います。

以上になります。よろしくお願ひします。

○岩田町長 それでは、順番にこう行きましょうか。では、岩井さん、どうぞ。

○岩井教育委員 岩井です。よろしくお願ひします。

林さんの話の続きですが、やはり役場の職員が少ない人数でかなり頑張っていると思います。是非、係とかプロジェクトチームとかではなく、東庄独自に「子育て課」という課をつくって進めていただきたい。教育委員として「教育」という立場で「子育て」に対してなかなか意見しづらいということがあります。

また、先ほど町長がおっしゃっていたように、「子供や孫がいなくても子育てを応援する人がいる町」になれるように頑張っていきたいと思いました。

○岩田町長 それでは、青野さん、どうぞ。

○青野教育委員 最近の学校と保護者の関係の中で、「家庭のしつけを学校へ持込む」ということが多くなっていると感じます。人によりますが、現

在の親の世代の非常識が感じられます。ですから、常識がない親の素行が子供に教育され、子供に常識がなくなってしまうという連鎖が生まれます。

最近耳にしたことです。「子供が起きないので行かせられません」と保護者が学校に電話をしてきたという話がありました。先生は「じゃあ、起こせばいいんじゃないか」と話していました。私もそう思いますし、「何でそれを起こさないんだろう」とも思います。ですから、家庭教育を充実させ、もう少し常識的なことを含めて見直しが必要であるし、子供の常識の欠如を防ぐことはできません。

コロナが終わって、久しぶりに小南で祭りを行いました。10日間練習をやりまして、初日から子供が7・8人来てくれて、親たちと一緒に楽しく活動をしてくれました。先ほどの話にありました伝統・文化を大切にするという「ふるさと教育」につながると思いました。小さな地域のお祭りですが、子供たちと親の世代、そして、その上の世代が集まり、「一緒にみんなでワイワイガヤガヤ」やる。その中で子供がちょっとしたいたずらをしたり、道を走ったりしたりする。すると、注意をしてくれる大人がいる。私はほかの子に対して言うことができないんですけど、「親の見本」という大人がいる。人の子供に対しても「悪いことは悪い」とはっきり言ってくれる。子供たちも「すみませんでした」と言って反省をする。こんな「つながり」が「ふるさとへの愛着と誇りを醸成する教育」、まさに、それなんじゃないかなと思いました。

○**岩田町長** ありがとうございます。それでは、秋元さん、どうですか、どうぞ。

○**秋元教育委員** 教育委員の秋元です。よろしく申し上げます。

東庄町は「保育は保育園、幼稚園から小中は学校教育」となっています。これだとやはり「0歳～15歳まで見守る」ということができません。東庄町では子育てと教育がそれぞれいろんな施策を行っていますが、その連携がまだ不十分に思えます。「子育て支援課」みたいな課があると良いのではないかと考えます。

私は、子供にとっても親にとっても、家庭教育の基本は0歳から6歳までだと思っています。親が親として育てられ、育たないので小中学校に行っても親は子供と大して変わらない、親になり切れないというのかな、そういう親がいっぱいいます。

旭市では「ステップシート」というものがある、「この子を15歳まで見守りましょう」という共通認識があります。この「ステップシート」を保育園から小学校に引き継ぎ、小学校から中学校へと引き継ぎます。子供一人に対して、そういうカードがあるのです。カードを書き連なっていく作業は、とても大変ですが、引継ぎの場があり、各園・学校が「子供を15歳まで見守る」という姿勢で接しています。「0歳からの教育」をしないと、「こども園はこども園の教育、小学校は小学校の教育、中学校は中学校の教育」ではいけないと思います。

0歳から6歳までの幼児には、椅子に座ってられないなど、いわゆる「問題のある子」がたくさんいて「授業にならない」ということをよく聞きます。ですから、その前にもっと早く手を打たないといけないと感じます。「0歳～6歳までの子育て」さらに言うならば、「おなかに赤ちゃんがいるとき」からお父さんとお母さんに家庭教育をすすめ、子育てにつなげてほしいと思います。そうすることで、椅子に座ってられない児童、勉強の学力がつかない児童、非行に走る児童などが減ると思います。

障害についても同じです。障害については手厚く、保護者・学校・医療が連携をとることが大切です。

しかも、障害については、こども園で発見してももう遅いのです。3歳児健診とかで、言語が遅い、知的障害、情緒障害などの障害は、おおよそ、3歳児健診が境とされています。この健診をもっと充実させるなどし、見極めて親に対して指導したり、アドバイスしたりする機会をつくるのが大切です。それからこども園や小学校に送り出していただけると、小中の教育もスムーズになり、親の自覚も増すと思われます。また、それには力量のある保育士、教師を育てるとともに子育てに良い環境の中で教育ができる東庄町となってほしいと願っています。

「ふるさと教育」については、いろいろな体験が必要です。「夏休みが全

部ゲームで終わる」といったことのないように、様々な体験活動を生涯学習で行っていただきたい。東庄町では「子供会がなくなった、スクールバスになって歩くことが少なくなった、地域の良さに気づく自然に触れる場面も少ない」など、こんな環境下では子供がふるさとの良さを気づくことができません。

「トンボを捕った、カブトムシを捕った、ホタルを見に行った」など様々な自然体験をさせることが大切です。そういう経験もなく、「ゲームだけしかやってない、テレビを見るだけ」では、かわいそうだなと思います。

以上です。

○岩田町長 ありがとうございます。

今、秋元さんの話を聞いて思いました。私の子供の頃は保育園も幼稚園もない時代ですから、小学校が初めての学校という時代でした。今は0歳児からいろんな問題が出てくるわけです。また、家庭の中においても問題があるだろうし、子供の病気のことでも問題があるだろうしと、様々な課題があります。

ですから、今までは幼稚園段階、小学校段階などと段階で分けています。また、年齢で「保育園に行く、幼稚園に行く、小学校に行く、中学校に行く」というように別々の教育が進められてきました。一貫しているのは、その子供たちが地域の中でいかにして育まれていくかということです。地域の人たちが子供たちを見てくれたり、病気になったときには手助けをしてくれたり、フォローしてくれたり、相談に乗ってくれたりということが、「地域の子供たちを地域で育む子育て」だと思いのです。

行政の中で、子育てに対して一貫して相談を受けたり、手続きができたりする担当課があると良いのではないかと改めて感じました。出生されてから15歳までの間は、どこの担当へ行けばすぐ対応してくれて、全部それが役所の中ですから横の連絡さえつければ、いつでも対応ができるようなシステムというのも必要だろうと私は思います。だから、もうそういう意味においては、進んだ行政をするということは、子育て課ということが、小学校の教育でも中学校の教育でも把握して、全部それを行くと一旦はそこで受けてあげ

るけど、今度は専門的な分野の中での人、担当を見つけてあげるというようなことも必要なんだろうと思います。

東庄町で生まれた子供は、一町民ですから、子供を育てていってあげるために、最大の助言ができる、そういう応援団みたいなのはつukれないかなというの、今、聞いていて思った次第であります。

ですから、今のお話は非常に参考になりました。できる限り、そういう体制を取れるような、そしてまた一貫して子育てできるような体制がつけると良いと思いました。今は、ここではっきり申し上げ、「つukります」ということはできませんが、大きな課題として残したいと思います。ありがとうございました。

教育長、どうぞ。

○石橋教育長 教育は小学校から中学校ではなく、0歳から義務教育を経て、生涯をかけて行うものと感じます。教育の深さを感じているところです。

家庭教育に関して少し話をさせていただきます。どんな子供たちを育てていきたいかというのは、人によっても校長や学校によっても様々な教育目標があります。保育園・こども園・小中学校はもちろんのこと、地域や家庭でもどこでも誰もが、統一した合言葉、「東庄町子育て4か条」を提案させていただきます。

- ・挨拶ができ、礼儀正しい子ども 【礼儀】
- ・心から「ありがとう！」と言える子ども 【感謝】
- ・ものの善し悪しがわかる子ども 【公正】
- ・相手の気持ちがわかる子ども 【思いやり】

これは4か条であっても、5か条でも構わないのですが、東庄町で統一をした標語として「子育て4か条」というものはいかがでしょうか。

○岩田町長 ただいま、皆様方からいろんなご意見等を伺わせていただきました。そういうことも含めて、再度皆様方がいろんなご意見があればお願いをしたいなと思います。よろしく願いいたします。

○林教育長職務代理者 今、町長がおっしゃっていた応援団という形で、保育・教育が一つに集約できていれば有難いと思います。その方向で進めていただきたいと思います。

もう一つ、教育長からもお話ありました「東庄町子育て4か条」があると、東庄の誰もが共通した子育てができると思います。もちろん、学校は学校単位でそれぞれ目標を立て、校長先生を中心に教育を進めていただいています。が、「目標を同じにする」ことも大事です。生涯学習を中心に家庭教育やふるさと教育をやっていきましょう。

生涯学習係においては、今も放課後こども教室を開催し、いろいろな形で進めていただいています。しかしながら、地域の方々にとって苦手とするところは、子供たちを指導するところにあります。基本となる子育て4か条に反した場合、指導者がきちんと指導できる体制づくりも必要であると思います。今後も、部活動も地域移行があったり、地域の方々为主体となる活動が増えていったりしていきます。そういう意味でも、このような「子育て4か条」があると共通した指導ができるのではないかと思います。

また、東庄町は人口1万3,000人といっても、大多数は先輩方で、子供の数が非常に少なくなってきました。大多数の先輩方が子育てに関わっていただき支援、サポートしていただく機会をつくと良いのではないかと考えます。それが、ある意味で、「東庄町の独自の教育」につながっていくんじゃないのかと考えます。

「子育て4か条」をベースに、「ふるさと教育」をすすめ、地域の力を借りて保護者や子育て世代をサポートする部署、生涯学習係の充実を図っていく体制づくりが必要であると思います。

また、青野委員さんがおっしゃっていた、「地域の祭り」でも、保護者が地域からのサポートを受けゆとりが生まれると「地域の祭り」にも参加しやすくなるものと思います。良い循環が生まれていくものと思います。個人的には、東庄町は弓道や相撲などを地域を挙げて活動していることは、外からも大きく評価されているところであると思います。

そういった意味でも「東庄町の教育グランドデザイン」や「子育て4か条」をしっかりと位置づけ、学校・家庭・地域に周知し、根づかせることが

大切です。生涯学習の体系化を図り、行政としてしっかりと体制づくりをお願いしたいと思います。

○岩田町長 岩井委員、どうですか。

○岩井教育委員 まず、「ふるさとへの愛着と誇りを醸成」ということですが、やはり、15歳までの教育については、今、話し合った体制づくりができると、とても良くなると思います。しかしながら、高校生から大学生までの18歳くらいまでの意見も聞き入れ、行政に取り入れてほしいという考えがあります。18歳以上は選挙権がありますので、行政には参加できますけれども、それ以下の子供たちには、その機会がありません。彼らは、優秀ですし、失敗も恐れない良い意見を持っていると思いますので、そのような15歳を超えて高校生になっても意見を聞けるような取組をしていただきたい。今の中学生の多くは、東庄町には愛着があって、町の発展をととても真剣に願っています。しかしながら、町には高等学校がありません。高校生の3年間で町への愛着が薄れてしまい、残念ながらそのまま大学や専門学校、高等教育への進学となってしまう、町を離れてしまうということがあります。また、スポーツが得意な生徒は遠くの学校に進学する傾向があります。私が教育委員になってからの7年間でも北海道・埼玉・福島などの高校へ進学しています。県内でも遠くの私立学校や佐倉・成田国際など進学校への進学を希望している生徒も多い状況です。

最初の話に戻しますと、高校生を中心とした18歳までの子供たちの意見を聞く場を考えていただきたいと思います。それを、東庄町の未来の行政に生かす場として新たな取組を考えていただきたいと思います。子供たちの意見を取り入れて、行政を変えていくというプロセスを、大人たちが一緒になって学んで、この町を発展させていきたいという気持ちが強くあります。

○岩田町長 ありがとうございます。それでは、青野さん、どうぞ。

○青野教育委員 先ほど、林委員がおっしゃった放課後児童クラブと放課後子

ども教室の連携を進めてほしいと考えます。地域の方々に支援をしてもらって、もう少し何とか利活用できないかと思っております。

私たちが子供の頃は少年野球があり、学校が終わったらみんな集まって野球の練習をした記憶があります。小学校でも部活動があったので、5時ぐらいいまでやって帰るという日常でした。今は部活動がなくなってしまったので、放課後児童クラブと放課後こども教室をうまく活用し、地域の方々の力を借りて子供たちの教育ができると良いと思います。

先ほど岩井委員が話していた内容の感想ですが、ここにずっといる子は、そんなに不便と感じないかもしれないんですが、都会に出られた方は、やっぱり戻ってきたら不便だと思うんです。コンビニが目の前にある、電車は5分で行ったら乗れるなどの便利さと、1時間に1本の電車、数キロも歩かなくては家に帰れない不便さの現実を目の当たりにします。

私たちは、自分の子供には、「帰ってきてもらいたい」という思いがあります。しかし、子供たちはどうでしょう。私たちがいかに東庄町に帰ってきてほしいと願っても、子供が帰ってきたいと思わないという現実があります。

私たち東庄に住んでいる大人は、「この豊かな自然を生かして魅力」を真剣に考えそれを発信していくことこそが重要であると思います。行政だけではなく、地域が中心となりながら、「ふるさとの愛着と誇り」を子供たちに植え付けていかねばならないと思います。町ぐるみで発信する体制づくりが必要です。

余談ですが、友人との話の中で「うちの子供は仕事があれば帰ってきたいんだけど、仕事が見つからなくて帰ってこられない」という話がありました。

○**岩田町長** ありがとうございます。秋元さん、どうぞ。

○**秋元教育委員** 私も学生するとき、4年ほど浦安にいましたが、東庄町がいいと思えたのは、最近です。子供たちには、いろいろな経験を踏まえ、「何でも体験させる」ことが大切です。たとえば、農業体験、まつり体験など…。今年でいえば「松澤のおいで（松澤熊野神社の神幸祭）」があります。過去に神代小学校が休校となり栈敷で見た思い出があります。「見る・触れる」

という機会をつくってあげないといけないと思います。そうしないと、良さは気づかないと思います。

また、体験の中には、自然体験、地域の祭り体験など様々なものがあります。興味を持たせるには、やっぱり学校の力を借りる必要があると思います。もう地域に子供も少なくなっていますし、子供会もない、廃品回収もないという状況の中で「地域で行事を行う」こと自体が難しくなっていると思います。地域の人の中で、「孫も子供もいないけど、協力する」という気持ちを醸成することも必要かと思います。子供たちには、「失敗してもいいから体験させる、経験させる」そういう場を多く設けたり、職場に行って体験させたりなどが重要だと思います。役場で実施しようとしている親職場体験（東庄町役場 子ども参観日）を行い、見る・体験するなどの機会を増やすことが大切です。こういう機会を増やしていただきたいと思います。

勉強だけではなく、いろいろな体験をさせ、人格を形成することがよいと思っています。人は、最後は人間性です。私は人間らしい心を持たせる教育が重要であると思います。教育長が提出した「東庄町子育て4カ条」にはそれがあると思います。ちょっと、おこがましいのですが、5番目に「我慢のできる子供」というのを入れたいと思いました。我慢のできない子供が多いので…。我慢ばかりさせていたら、大変でしょうけど…。町ぐるみでこの「東庄町子育て4カ条」を根付かせたいと思います。すみません。施策というものはないんですけど…。

○岩田町長 教育長。

○石橋教育長 ありがとうございます。

ただ今、「家庭教育」というお話からいろいろなことに派生していききました。「5カ条」でもいいと思っています。今後、教育委員会、あるいは学校運営協議会等でも話し合いを深めて、一つの方向性を導き出していきたいと思っています。

さて、話題になっている体験学習についてお話をします。学校においても机上の学習も大切ですが、同じくらい体験学習は本当に大切な学習だと思い

ます。机の上ではできない勉強を体験学習として行わせ、「失敗と成功」を体感させながら行うことが重要です。

では、どのように体験学習を学校教育（教育課程）に組み入れていくかということになるかと思えます。また、それをどう開発していくかというのが、今後の課題です。教育委員会としては、生涯学習の一つの方向性を見出しながら、学校教育、小中学校との話し合いをしながら進めていきたいと思えます。

先ほど秋元委員からお話をいただいたように、生涯学習を充実するため、本年度「東庄町役場 子ども参観日」を設け、町の職員の子供たちにお父さん、お母さんの仕事ぶりを見学・体験をさせ、家庭教育やキャリア教育に結びつける取組を計画しています。また、議会でも話題になった石出堰親水公園で中学生の体験学習を計画・実行したいと考えています

今後は、「東庄町は歴史的に見ても、素晴らしい人物や遺跡がある」ということを知らしめ、郷土に誇りを持つ子供たちの育成に取り組んでいきたいと思えます。中世の時代、東氏が本町の領主でした。実は、源頼朝があれだけ動けたのが、この東氏がいたからです。歴史の中の表舞台で活躍した人と、裏舞台で盛り上げた人物がいたからこそ、歴史がつくられるのです。その後、東氏の主流は、郡上に行きます。郡上市と本町の交流も教育面から進めることができると思えますので、今後その面でも考えていきたいと思えます。

○岩田町長 いろんな皆様方のご意見をいただきました。

共通していることは、町の子供たちを良い意味で、いい力添えをし、皆さんが今、話し合った形の教育にあたっていこうということです。町に小学校が5つあった頃は、学校単位の競争心が非常に強かったものです。学校が一つになり、競争心がなくなったかというところとそうじゃなくて、今度はほかの学校の子供たちに負けないようにということで努力しています。中学校では全国大会に出場したり、全国大会でもいい成績を残したりし、そういう子供たちも結構おります。

しかしながら、最近では、「すぐ誰かに頼み、手助けを求めたりする子、自分で問題を解決しない子」などが目立ってきた気がします。手助けが過ぎ

ると子供たちが自らやろうとするものを奪ってしまうことにも相なります。ですから子供の教育というのは、大人が考えるよりももっと複雑であると感じます。私の経験から、そういうことが非常に多かったものですから申し上げます。

さて、皆さん方からいろんなご意見を伺いました。今のご意見を総括して、皆さんから最後に一言ずつお願いしたいと思います。

○**林教育長職務代理者** 今、町長がおっしゃったように競争もなかなかないという話の中で、話し合って解決することの大切さを感じました。また、1校になったことで、その中では確かに競争というものが少なくなってきたと思います。

今までの議論は、どちらかというところ「東庄町の子供たちをいかに戻ってこさせるか」という議論となっていたと思います。「外から東庄町がいいね」というような「呼び込み」という視点も大切であると思います。たとえば、「ふるさと教育」とは、「ふるさとを教えるのか」「ふるさとで教えるのか」という視点にもつながります。ふるさとで教え、「そういう教育がいいね」といって「東庄町でもっと子育てしたい」という人たちを外から呼ぶということも良いのではないかと思います。

空家政策も、議員の方々が様々な形をお考え頂いているということは伺っております。この点も含め、教育が核となって「東庄町の教育がいいから、子育てをここでしたい」「東庄町に来たい」というような教育を構築していくべきなんだろうなというのが、私の個人的な意見です。

そのために一つ目、0歳児～15歳、～18歳を含めた生涯学習による教育を充実させることが大切です。二つ目として、地域の先輩方が子供を育てるといふ具体的な施策、学校・家庭・地域の連携という視点での施策が必要です。

人が増えれば、そこに仕事もついてくるし、職も増えてくる。ネットの普及を考えたら「地方にいても仕事ができる」という状況が現代社会です。そういうところに働き口を見つけられれば、東庄町の子どもたちも、東庄町に残ることもできることでしょう。発想の転換をしていかないといけないとい

うことを感じた次第です。

以上です。

○岩田町長 岩井委員、どうぞ。

○岩井教育委員 私は、今までの話を聞くと、いろいろな子供がいるので簡単にはいかないと思いますが、「15歳まで東庄町で育てる」という話に戻りますと、やはりその段階までに「強い子供」をつくってあげないといけないと思いました。学校に行けないという子供がいる現状からも、しっかり東庄町で「強い子供」をつくって、高校に行くなり、大学に行くなりというまでのことを考えてあげないと、どんどん弱くなっていってしまうのではないかと思います。「仲よしチーム」でやるのではなく、一人一人重要性を考えタフなチームとなって、「皆同じことを同質ではなく、多様性を持ちながら教育をする」ということが必要であると感じました。「強い町の子供」をつくっていきたいと思います。

○岩田町長 はい、どうぞ。

○青野教育委員 自分の子供一人育てるのにも大変なのに、町全体の子供の教育なんて今まで全然考えたことがなくて、本当に非常に難しいことだなと実感いたしております。

本日傍聴されている方には、先生もいらっしゃいますが、「子供の頃、相当学校で怒られた」という記憶があります。小学校もそうですし、中学校でもすごく怒られましたが、自分が悪くて怒られたので「怒られて当然」と思っています。今、子供の話を聞いても、「怒られる」ということはあんまり聞きません。ぜひ先生方には、「悪いことをしたら怒ってもらいたい」とお願いしたいと思います。学校で楽しくやれたらそれが一番良いのですが、本当に悪いときに「ビシッ」と叱っていただきたいと思いました。昔みたいな怒り方をするといろいろな問題になるかとは思いますが、今では、「叱っていただいて、よかった」という記憶があります。

○岩田町長 ありがとうございます。それでは秋元さんどうぞ。

○秋元教育委員 林委員がさっきおっしゃっていましたが、「東庄町の教育が良い」と思ってもらえるには、特色を出さなければなりません。公立学校なので文部科学省のカリキュラムにのっとって教育を進めていかなければなりません。が、「選ばれる学校」にならないといけないと思います。それには、先生たちの力量を高めなくてはなりません。先生がサラリーマン化しては、いい色は出せないと思います。私立の学校や私立の保育園は色を出さないと親に選んでもらえないという現状があります。

「東庄町の教育が良い」という施策をみんなで考えていきたいと思います。例えば、町長さんがおっしゃったように「応援団」をつくり、相談窓口の一本化の体制を整えたり、登校拒否などの問題行動に連携して取り組む機関を設けたりしながら町ぐるみで子供たちの教育を進める体制を整えることが大切です。

今の親は孤立しています。核家族が多くなりなかなか相談できる場がありません。だから虐待に走る…。「あんたが悪い」と子供に手を出してしまう。私は虐待の子供も何人も見てきました。そういう親をフォローしてあげたり、「お母さんはお母さんで一生懸命なんだよね」と認めてあげられるような人や場面をつくれると良いなと感じました。

○岩田町長 教育長、どうぞ。

○石橋教育長 いろいろありがとうございます。

まだまだ議論はもっと深めていかなければいけないと感じています。一つ目に「ふるさと教育」を充実させていく中で、林委員がおっしゃった自然体験や伝統・文化を引き継ぐという柱の根本には家庭教育支援の充実というものがあるということを改めて認識しました。今後いろいろな施策を進めていかなければいけないなと感じたところです。特に、家庭教育支援においては、教育委員会と福祉とが連携し「東庄町子育て4か条」を周知徹底させること

が重要であると感じました。また、その様々な相談の窓口も、できるだけ一本化できるような体制を、考えていきたいなと思いました。

二つ目は、体験学習についてです。さまざまな体験学習を生涯学習の一環として計画を立て学校教育・生涯教育に生かしていきたいと感じました。

三つ目は、今、中学校や小学校でいろいろな特色ある取組をしています。秋元委員がおっしゃったように、私立は確かに特色ある学校づくりを進めなければ人がなかなか集まらないというところもありますけども、やはり、今、公立学校も同じような状況です。例えば東庄中学校では、先日はキャリア教育の一環として8人の講師を招いて、体験を語っていただきました。その中で本物のクレーンを2台持ってきてくれた方がいたり、また、本物のレーシングカーも来校しました。そういう実物を見ながら、体験する教育を進めています。1・2年生においては、自分の興味・関心に応じた教育（東庄学と呼んでいる）を進めているところです。

小学校においても、その発達段階に応じながらいろんな体験をするということで、稲刈り体験などさまざまな体験を計画・実践しております。他の小・中学校では体験できない学習に取り組んでいるところです。

本日は、いろいろ忌憚のないご意見をいただきありがとうございます。

以上でございます。

○岩田町長 ありがとうございます。

皆様方から、「ふるさと教育」ということでお話を、またご意見をいただきまして誠にありがとうございました。

町といたしましても、できる限り協力、努力をしてまいりたいと、このように考えております。

私からも申し上げたいと思いますけども、やはり子供たちを育むというのは非常に大切なことでもあります。子供たちの意外と声が届かないところもあるのだらうと思います。学校というのはすごく頼りになるところでもあるし、また友達もいっぱいいますから、そういう意味では安心していただける場所です。子供たちにすれば、非常に居心地のいい場所です。その居心地のいい場所を居心地の悪い場所にしてしまうのは、人と人のいがみ合いであったりい

じめであったりもします。

私ごとで大変恐縮でありますけども、学校は休まず毎日通いました。というのは、学校へ行けば何かがあるし、また楽しいことのほうがウエイトが多いわけでありますから、学校はもう休まないで毎日行くところだということをお頭にありました。勉強したかどうかはまた別としまして、「学校は楽しいとこだ」、「友達もいっぱいいるとこだ」などというインパクトしかありません。

ですから、「楽しい学校」を目指しながら学校教育を進めていただきたいと思います。今後も皆さん方と一緒に子供たちのために育む良い意味での教育ができればと、このように思っています。

東庄町には一流会社に勤めている人がたくさんいます。リモートで仕事ができる、会社に通わなくてもいい時代なのです。今、会社に通っているというのは、大手でも数少ない会社であります。ほとんどの社員は自宅で会社と連携ができます。こういったことを踏まえると、「ふるさと」を大事に思いながら、これからも「ふるさと」で過ごそうという思いの人たちが多くいます。

また、ふるさとの行事はいろんな意味で子供たちの思い出づくりのためにもなりますので、続けてまいりたいなと思っているところであります。

このような意味からも、「子供たちを育む応援団」でありたいというのが私の気持ちです。「ふるさとが人を育み、人がふるさとを創る」やがてこの思いが子供たちに伝わればいいなと思っているところであります。

全ては子供たちのためということでありますので、もっともっといろんな意味で今後も厳しいご意見等をいただければと思います。今後ともよろしくお願いを申し上げまして、本日の会議を終了させていただきたいと思っております。ありがとうございました。

○堀江総務課長 ありがとうございました。

それでは、5番の全体のその他でございますが、その他ということで、皆様から何かございましたらお願いしたいと思っております。

(なし)

よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして令和5年度第1回東庄町総合教育会議を閉会とさせていただきます。お疲れさまです。

○岩田町長 ありがとうございます。

(午後2時46分 閉会)